

相談支援事業所 相談に関する報告 支援に課題を感じた事例や傾向
(令和3年2月～令和3年6月)

春日苑	日本語が話せない方からの相談について、母語が同じヘルパーが通院等介助に入ったことで医療でのインフォームドコンセントの実現ができたケースがあった。春日井市には通訳ボランティアの派遣制度があるが、急を要するケースなどの対応が困難であり、個人情報の観点からも利用しにくい現状がある。
かすがい	多くの課題を抱えていると捉えるまでに時間を要したケース、生活面で課題を抱えているが就労場面には問題がないため相談に繋がらないケースなどがあった反面、計画相談員が委託に繋いでいたことで状況を的確に把握できていたケースもあった。適切に繋ぐこと・繋がることの困難さや大切さを感じた。
JHN まある	さまざまな事情から精神科受診が途切れてしまい、家族や家賃保証会社から相談があったり、病気・障がいと判断し難かったり、民生委員や近隣住民と連絡を取り見守っているケースなどがあった。病気・障がいと判断できない人や医療・福祉の利用に消極的な方もいる中、継続的な見守り・途切れない関係作り・繋げる仕組みが必要だと感じた。
あつとわん	家庭内の子どもに対する育てにくさや関わりづらさに関する相談がある。保護者が子どもの問題に焦点をあてすぎて、困り感を解消することができない場合もある。家庭支援として、保護者の『子どもの育ちを支える力』の向上を目的とした機会が必要であると感じている。
しゃきょう	福祉サービスや公的な制度だけでは解決できず、NPOやボランティアなどのインフォーマルサービスを利用したケースがあった。当事者の思いを実現するためには、地域の社会資源の「質と量の充実」が求められているが、まだ十分とは言えない。



課題に感じていること	相談対応で見えてきたこと
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域や関係機関との継続的なネットワークの構築 ・ 新たな仕組み作りや社会資源の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多言語支援者が在籍する事業所の情報共有や支援者の育成・確保など、多文化共生の観点からも多様なニーズに対応できるような情報共有ができる場や仕組みが必要である。 ・ 本人や家族に問題意識は無いがさまざまな困難さを抱えている場合、<u>地域の中で気付き相談機関に繋げてもらうためのネットワークの構築や仕組みが必要である。</u> ・ 当事者の生活の全てを医療や福祉サービスで支えるのは困難である。継続した見守りなど、<u>地域で関わりを持てる繋がりや仕組みが必要である。</u> ・ 支援センターなどの専門機関以外にも気軽に保護者・家族が相談できる場所など、<u>新たな社会資源の開発が必要である。</u> ・ 社会資源の充実には、<u>個を支える地域づくりのためには、フォーマル・インフォーマル双方の視点が欠かせない。</u>



【現場レベルの事例を共有したり学びあう場作り・様々な視点を入れた支援体制への仕組み作り】
障がい・子育て・教育・医療・保健・介護・司法・経済・多文化などの多種多様なニーズに対して、専門分野を超えた支援者が実際に集まり事例を共有したり学びあう場を作ることが必要である。また、そこで出た課題についてどのような社会資源が必要か、フォーマル・インフォーマル双方の視点から資源開発・育成を図り、地域に根差した取り組みを推進していくことが必要である。